



なぜ過去問が必要なのか？

●大学受験生はもちろん高校受験生も東葛飾中受験生も過去問題集(過去問)をやるよう指示され解いていると思う。では、なぜ過去問が必要なのか？きちんと理解して効果的に使っているだろうか？今回は過去問について考えてみよう。

●さて、過去問とはその名のごとく過去に出題された問題をまとめたものである。だから、既に終わった試験問題を解いて何の意味があるのか？もう二度と出ない問題を解くことは無駄ではないのか？という疑問が湧いてくる。

●実は私は高校受験のとき、過去問をほとんどやらなかった。指導されていなかったか自分がサボっていただけなのか記憶はないが、とにかく過去問をやっていた。そして、ある高校の試験会場。数学のテストで明らかに他の高校と出題形式が異なる形の問題があった。まず、焦った。しかも難しかった。もちろん記号で答えるような問題ではなかった。カンも使えない。結果ほとんど白紙で出した思い出がある。もちろん不合格。あとから思った。過去問があるなら教えてくれればよかったのに。あんな問題が出るなら、対策をするか、初めから受験しなかったのに。

●さて、こんな体験から、過去問にどんな意味があるのか？の結論。解く意味はある。

(意味が無かったら創学舎で解くようにも言われないし、書店にこんなにも過去問が並ぶことはないであろう)

●傾向がつかめる。自分の弱点がわかる。今後の課題も見つかる。なにより最終目標が明確になる。

●過去問を解いているとわかることがある。まず、年毎の問題の出題形式やレベル。必要とする知識が大体同じである。そして、自分がどの分野・内容ができないのかはつきりする。毎年同じような内容で間違えている人はその内容を学習し直せばよいし、毎回間違える場所がバラバラ、ケアレスミスが多い人はその対策が必要となる。弱点が見つかる。残り期間で何をやる必要があるかという課題が出てくる。そして、なにより、本番

で向かい合う問題のレベル、パターンを事前に知ることが出来る。何も情報を持たずに試験本番で戦うより、事前に多くの情報を手に入れている人の方が明らかに強い。



これは対戦相手のことを事前に調べて対策するスポーツなどと同じである。圧倒的な実力差があれば相手が誰であろうと負けないだろうが、実力伯仲の相手であれば、いかに相手の弱点を突くか、など情報収集が必要である。

●少しは過去問が必要なのだということが理解し始めたかな。

●最後に過去問をやるときの注意点のお願い。①時間を計り本番と同じように解く。

②解説をしつかり読み、できなかった問題を理解し直し直す。もちろん自分に必要ない問題に時間を割きすぎることの無いように注意する。③弱点となっている単元を学習し直す。

●さて、これからまだまだ過去問を解くと思われる。しつかり取り組んでよい結果に結び付けよう。

(松永)

勉強法を知らない生徒達④

●英単語が覚えられないと嘆く生徒は、驚くほどたくさんいます。一方で、少数ですが、単語を(その場限りでなく)しつかりと覚えている生徒もいます。使う本もバラバラでやり方もさまざまですが、この生徒達には共通点があります。(本人たちはおそらく気付いていません)①毎日やる。②感情が動いている。この二点です。自分で気付いたのかもしれませんが、この二つができることを「勉強のセンス」といいます。部活で何も教わらなくても最初から上手な人がいるのと同じです。

●実は、どの高校でも単語テストを実施しています。生徒の対応は様々です。一番多いのが、直前に何度か見て、一部分しか覚えられない生徒。次が、その範囲だけは、時間をかけてしつかり覚えて合格点をとる生徒。しかし、この生徒も一度やったところを継続してやることはせず、結局忘れてしまします。そして、多くはありませぬが、継続してやり続ける生徒。この人達だけが、受験に必要な単語力を身につけていきます。

●英単語が覚えられないという生徒も必ず「やっています」と自己弁護をします。確かに「やっています」のですが、成果はあがらない。部活の練習をしていつも一回戦負けのパターンと同じく、やり方が悪いのです。

●教える人は、ある程度「その科目の勉強のセンス」があった人です。そして、ほとんどが無意識にその科目の勉強をしていたが故に、「センス」のない人のことは分かりません。ここに教育の現場での最大の問題点の一つがあります。

●さて、先月号で述べた単語の覚え方ですが、単語が記憶される以外に大きな副産物があります。まず、脳の中に、記憶するために感情を動かして短時間でくり返すという習慣ができること。次に、単語をうけ入れやすい脳に変わること。そして、覚えられるという成功体験が得られること。

●一度作った脳の習慣は次のステップへとつながります。英熟語をやるもよし、古文単語をやるもよし。但し、一ヶ月経つ度に一つずつやることを増やすようにしたほうがよい。例えば、英単語が続いてきたので古文単語を増やす。一ヶ月経つて、この二つが続くようになったらもう一つ増やす。

●どの場合も原則は同じ。毎日やる・時間をかけない・必ず二回感情を動かす。勿論、それぞれの作業に科目に応じたポイントがあります。(紙面の許す限り紹介したいとは



因みに、覚えられないという生徒も必ず「やっています」と自己弁護をします。確かに「やっています」のですが、成果はあがらない。部活の練習をしていつも一回戦負けのパターンと同じく、やり方が悪いのです。

思います。)理科嫌い。社会大嫌い。上等です。それがどうした。毎日やる。時間をかけない。必ず二回感情を動かす。この原則に従ってやればいいのです。

●そして、もう一つ大事なことがあります。これも教える立場にある人、親、教育行政に携わる人、みなさんまずご存知ないことです。これについては、また後日。

(小林)

今すぐ飛び立つ勇氣

人生で一番つらいなと思ったのは、大学三年生、就職活動のときです。

「あなたの長所は何ですか。」

面接でよく聞かれる質問の一つです。就職活動で、私は、いくつもの会社の面接を受けましたが、自分のことを、練習したとおりに一生懸命話しても、面接に落ち続けました。そのたびに、「自分のいいところは何だろう。」と考えました。面接を乗り切るために、少しずつ表現を変えながら、というより、自分を「盛って」話して、面接に落ちるたびに、「自分にはいいところはないのではないのか。」とへこみました。



そんなとき、自分でどうすればいいかわからず、キャリアセンター(大学の中で就職活動の面倒を見てくれるところ)に相談に行くと、「百社くらい受けなきゃ受からないから、もっと頑張りなさい。」というアドバイスだけ。周りの友達に相談してみても、「大丈夫だよ、自信もつ

てやれば受かるよ。」とだけ。家族に聞いてみると、「大学入ってからテニスばかりしているからでしょ。」としかられる始末。

自分で考えてもわからない。でも、誰に聞いても答えがでない。もう何もやりたくない、無気力な日々が続きました。進路が決まっていけないのに……。そこで出た結論は「そもそも自分で考えることを放棄して、他人に答えを求めても、自分の進む道は決まらない。」ということでした。私は「どうすればいいかわからない!」と思った時点で、自分でなんとかするという選択肢を消していました。でも、自分のことでは何かを決めるのは、覚悟がいるし、気が引ける気持ちもあります。「誰かに言われたから」よりも、「自分にはこれしかない」と先に進むほうが、清々しい気持ちになります。

最近、本を読んで、「就職活動中の自分に、言い聞かせたかった!」と思った言葉があります。「生きるというのは、瞬間瞬間に情熱をほとばしらせて、現在を充実することだ。」(岡本太郎著『自分の中に毒を持って』)より)今、自分の進路で悩んでいる皆さん。たくさん迷うこともあると思いますが、自分で覚悟して決定してください。応援しています。

(富田)

学ぶことの「楽しさ」

突然ですが、みなさんは英語を学ぶのは楽しいですか。

私はといえば、もちろん英語は中学生の頃から嫌いではありませんでしたが、本当

に心の底から楽しいと思えるようになったのは、やはり大学で専門的なことを学ぶようになってからでした。例えば、英語史の授業では、英語の発音が昔はローマ字の発音に近かったことや、筆記体や印刷術が発音に大きな変化をもたらしたこと、また辞書学では、辞書の中でも単語における性差別の変遷があったことなど、多くの発見があり、毎回ワクワクしながら参加していました。



英語に限らず、学ぶことの真の楽しさは、おそらくそうした専門的なことを学んでいくなかで初めて感じられるものなのかもしれません。

すると、小学校から高校で学ぶことには楽しさは存在しないのでしょうか。いいえ、そんなことはありません。もちろんあると私は思います。ただ、その楽しさは大学でのそれとは質が異なり、達成感と表裏一体のものです。例えば、英語の長文読解が最初は全くできなかったとします。しかし、地道に単語を覚え、文法を復習し、読解の方法を何度も確認していくなかで、だんだんと文章を読み解くことができるようになっていく。そして、最終的に、文章全体の内容を何の助けも借りずに理解できるようになっている自分にと気がきます。そのときになって初めて非常に大きな達成感を感じることができ、同時に「ああ、勉強って楽しい」と感じられるようになります。

こうして「楽しく」様々なことを学んでいくなかで、大学で専門的なことを学ぶための基礎が出来上がっていきます。この基礎なしにいくら大学で専門的なことを学んでも、何の面白さも感じられません。そもそも基礎がなければ、授業で説明されている内容自体分かりませんし……。

つまり、みなさんは今、これから大学、さらには社会に出てそこで専門的なことを学ぶための「基礎作り」を行っている真最中なのです。その「基礎作り」に教科の垣根はありません。みなさんの好きな教科からで構いませんから、ぜひ「楽しく」学んでしっかりと基礎をつくり、将来のさらなる楽しみを手に入れてください!

ただ、その道のは決して楽なものではありません。ときには部活などの学校生活と勉強の両立に悩むことだってあるでしょう。また、大きな壁にぶつかったり、そこからスランプに陥ってしまったたりするときもくるかもしれません。そんなときは、ぜひ私たちに一度相談してください。きっと少しはみなさんの力になれるはずです。そして、私ももっとみなさんの力になれるように、一緒に「楽しく」学んでいきたいと思えます。

(植草)



▼▲バックナンバーのご案内▲▼

▶創学舎ニュースのバックナンバーを創学舎ホームページにて公開しています。ぜひご覧ください。

<http://www.sougakusya.com/>